

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
田村主幹	<p>開催日時 平成27年4月15日（水）18:30～21:05 健診ホールにて</p> <p>出席者 佐久間副部長、志布、疋田、佐々木各委員 説明員 平井総務部長、田村総務主幹、小室財務主幹、 石坂契約財産主幹、河端電算主幹、小澤政策担当 事務局員 露口まちづくり主幹</p> <p>テーマ < 行財政運営 ></p> <p>権限移譲を考慮した機構改革、定員配置の取り組みについて、進捗としてはH18年にグループ制を導入後、人員の抑制に取り組んだ。定数が285名のところ275名が正職員の実際配置。グループ制が始まった頃に比べ12名（4.1%）減っている。平成9年が339名の職員がいた。こうした中で多様な業務が増えたり、権限委譲で業務増えており、グループ制で対応。</p> <p>具体的にはグループ内外の職員の業務量の平準化及び再任用職員の配置。また部長権限でグループ内の事務分担・随時組織見直しできる。</p> <p>2点目、自治基本条例に基づく職員の責務を達成するための人材育成では人事評価をやり出した。5段階評価で給与に反映してくる。</p> <p>次に「電子申請・予約、文書管理、電子決裁システムの整備」では、進捗状況として、電子申請・イベントや講座の申込などにシステム活用している。また、ファイリングシステムを導入し、適正文書管理と検索性の向上、事務の効率化を進めている。</p> <p>課題としては、更なるシステムの活用が必要。ファイリングシステムの本格導入に向けて、管理体制の整備が必要。</p> <p>今後の見通しですが、町民の利便性向上のため、システムを活用した申請・申込受付・アンケートなどの件数を増やしたり、ファイリングシステムを順次導入していくこと。</p> <p>平成26年度から開始して、綴じ穴にせず、厚紙フォルダに書類を挟むようにして、引き出しキャビネットに保管する。決めた場所に保管して、誰でも検索可能にすることで、本来事務に専念することが可能。来年で完了予定。</p> <p>次に、総務関連では「庁舎施設の集約検討」ですが、進捗として利用者の安全の確保及び施設の老朽化に伴う損耗箇所を年次計画による補修によって長寿命化が図られている。</p> <p>今後の見通しですが、長寿命化を図ろうとしても、施設の使用限度に限界はある。さらに別館も老朽化が進む中で、本庁舎との統合も視野に入れた本庁舎改築論議が必要。役場庁舎は昭和35年建築で55年経過している、しゃきっとプラザは10年前で新しい。手すりや照明のLED化トイレの洋式化に努めている。</p> <p>次は電算システムについて説明する。</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
河端主幹	<p>「電算システム」の主な取り組みですが、電算システムの更新についてというよりはシステムの維持管理になります。</p> <p>進捗状況ではH23年度より稼働している新電算システムにおいて、プログラム及びセキュリティ強化も随時行い、情報漏洩に努めており稼働も安定している。役場に保存する機器を置かずにする方法。災害のときにもデータは別の場所にある。</p> <p>課題は自治体クラウドの導入検討全国的なクラウド化への移行傾向や国の推進などから安全に前向きに検討していく。</p>
佐々木主幹	<p>「戸籍システム電算化事業の実施」ですが、平成20年に戸籍の電算化により、記載事務の効率化、交付の迅速化が図られてきたが、導入後5年を経過し機器の劣化及び、非常時を想定したバックアップ体制として、戸籍の正本と副本の同時滅失を防止するための戸籍副本データ管理システムを稼働させるため、機器の更新を実施した。平成25年度に終わっているので、あと6年間継続メンテナンスしていく。</p>
石坂主幹	<p>「公共施設の改修」について説明します。公共施設等総合管理計画の策定に向けた作業を進める。現在使用している行政財産と一回使い終わった普通財産を持っているがそうしたものが古くなる。全体的に施設30年を経過すると長期的に、一度に工事は大変なので平準化して計画的に。そうした情報収集を町内各所に所在する町有財産の現況を把握するとともに、財産台帳との突合が必要である。現状を把握したうえで維持管理と改修も含めて計画を策定するため平成27年、28年に町民に情報提供しながら進めたい。</p> <p><質疑応答> これまでの中で質疑を求める。</p>
疋田委員	<p>本庁舎が50年経つが、もし大きな地震が来たら大丈夫か？</p>
石坂主幹	<p>正直、本庁舎は大きな地震で壊れるなどの可能性ある。建築基準法では昭和56年以前の建物は見直しが必要となるが、早急に整理してできるだけ負担かからないように整理していく。</p>
佐久間副部長	<p>グループ制の問題点で機能がしていないとはどんな面で？</p>
田村主幹	<p>グループの中で、担当いるが、業務量も偏りを平準化していきたいのだが、部署により担当の持つ業務が多くバランスがとれてない場面あること。</p>
疋田委員	<p>電話をしても担当が不在で即答されない場面があった。グループ化なのであれば役場職員で即答対応できないのか？</p>
田村主幹	<p>まちづくり白書でも類似する意見が多い。接遇研修でも委託しておりますが、まだ到らない所多い。直して行きたい。</p>
佐久間委員	<p>電算化に関しては例えば一般の方でいうとイベント申込みも出来る。</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
志布委員	病院の会計が遅いが、電算化になっていないのか？
平井部長	27年度に電子カルテ導入を予定しているが、今は電算化してない。 これからは、スピードアップになる。検査やクスのオーダーリングシステムは入っているが更新できないので、この時期に電算化を良くすることになった。
志布委員	停電時の対応はどうする？
河端主幹	自家発電は持っている。窓口や電算室の対応は出来る。
佐久間副部会長	庁舎や公共施設の改修などについて。 5年ほど前には庁舎に網戸がなかった
平井部長	10億円以上はかかる。敷地考えると高層考える必要もある。実施するときは分散している庁舎を一つにすることも。耐震化もそうだが、町民会館は耐震化ができるが、新しくはならない。コンクリートは風化するので配管設備は老朽するので、耐震補強は出来るけれども、同じ程度の経費かかる。比較すると新しくするか、それとも補強がいのか、住民利便性を考えて検討していく時期には来ている。
志布委員	町民の財産であるから、中途半端よりもしっかりした建物にして無駄にお金をかけないようにしてほしい。
佐久間副部会長	役場に統合できそうな施設は？
平井部長	図書館も古くなっている。昔は役場駐車場の場所にあった、その跡に郷土資料館で利用していた。
志布委員	しゃきっと3階のスペースを利用して、学習の場所や、簡易な打ち合わせに利用している。
佐久間副部会長	公共施設の広い範囲で質疑ありませんか。
疋田委員	スポーツ関係の施設は利用されているのか？
田村委員	年間スケジュールで利用を予定しているが、開いている時間には一般でも利用可能。広報紙でもスケジュールは周知しているが。
疋田委員	使いたいときに、どこで何ができるのかと思っているが。そこで子供達と話して終わっていたが。
佐久間副部会長	まちづくり白書の意見でも、人口が減っているため公共施設の計画的な改修の考え方、同規模の施設まで必要なのかとか、意見にたいしてはどうですか。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
足田委員	活用してないなら不要と思うが、使われているのであれば施設は残してもいいのではと思う。
佐久間副部長	27、28年には公共施設等計画が検討されるが、それも今策定中の総合計画が基本となる。大本の計画は総合計画であり、意見はないか。
志布委員	美幌にはスポーツジムのトレセンやしゃきつとでも安く利用できる。
平井部長	年間4万人が利用している。
足田委員	保育所では子供の遊ぶ施設が狭いのでは。冬は使えない。
平井部長	学校ではクラス数が少なくなり、部活にも影響あると聞く。一クラスに35人とかは良いが、その一つを確保するのに難しくなってきた。1学年に1クラスしか編成できず、競い合うことが不足。
佐久間副部長	公共施設の部分は2巡目でも議論もらうことで、次に移る。
露口主幹	<p>「計画の管理、行政評価の推進」について説明。主な取り組みでは行政評価を含めた計画の進行管理を行い、平成25年度事業の事後評価、平成26年度事業の事中評価を実施した。まだ試行段階のため内部評価で終わっているが、今後の本格運用になれば外部にも公表していく。評価内容を次年度予算に反映できるようにシステムを考えている。</p> <p>課題は、今は、総合計画・予算・行政評価の各事業が完全整合していないため、原課の事務負担が増している。また評価内容が予算等に反映されていない。これらの改善案では、事業の完全整合で総合計画、行政評価を一元管理して原課の事務軽減に努め予算に反映させるシステムを27年度に取り組む。</p>
小室主幹	<p>次の説明は、「財政の運営」について。</p> <p>財政運営計画の実行と見直し。第2次財政運営計画の計画目標を達成しており、財政の健全化は図られている。過疎地域の指定（h26.4）に伴い、新たな財政運営の指針が求められています。今後としては平成26年度中に財政運営計画の見直しを行う予定であったが、実は昨年末から人口減少に対応した、地方創成を推進するため、町では総合戦略を創り各種事業を進めることになる。当然新たな事業も出てくるため、計画見直しは先が見える27年秋頃には策定していく予定。</p> <p>2点目には、財政基盤の強化と効率的財政運営の実施ですが、町有財産（遊休資産）の有効活用を図るための更なる取組が求められている。課題としては特に、地方交付税が減少傾向にある。こうしたなかで持続的に財政運営に努める必要がある。</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
（引き続き） 小室主幹	<p>家庭と同じく消費税の税率改定（H29.4予定）に合わせ、使用料・手数料の見直しを行う必要がある。平成21年4月に見直しそれ以降していない。途中見直し考えたが、消費税率変更になるため影響が続くため最近は見直し実施していない。</p> <p>別紙資料（議事録省略）により説明する。</p>
露口主幹	<p>行政改革の推進について説明します。主な取り組みですが「行政改革実施計画の継続策定と実施」。内容として第5次行政改革実施計画に基づき、行政改革を実施しているところ（～27年度まで）67項目について進捗を検証。行革では金額ベースで成果を挙げている事以外に、事務効率に取り組み成果を上げている面も多い。しかし外部委託とか難しい課題では計画どおりに進んでいない項目もある。</p>
佐久間副部長	<p>これまでの説明から質疑を受けます。聞き慣れない事多いと思いますが。（佐々木委員遅れて途中参加する）</p>
志布委員	<p>北海道が過疎地域多く83%の自治体。全国では46%と半分以下だが、北海道はどうなるのでしょうか。</p>
平井部長	<p>人口減少が問題で、この過疎法の言葉でいう「過疎」言葉が適当ではない。</p>
志布委員	<p>北海道では車が必需で便利であるが、自動車税について以前から疑問に持っていた。お酒には酒税が多く入って、さらに消費税をそのままかけておかしい。</p>
佐々木委員	<p>財源は町で決めるものか、国で決められるのか？</p>
小室主幹	<p>国は全国で集めた税金を全国に再度配分するしくみで、一つは普通交付税では、美幌の標準的な行政サービスに掛かる経費から税金を引いて、不足額を交付してもらえ。一定程度のサービスをどこでも受けれる様に。</p> <p>災害など特殊事情で掛かる経費があったときに特別交付税は別にあり、全体で4割くらいが国の交付金で賄っている。</p>
平井部長	<p>本来美幌町だけで集めた税金をその町で使えればいが、地域によっては事情が違い格差がある。そのため全国どこでも均一な平均的なサービスを受けるために、一旦国が税金を集めうまく配分する。不足している所に当たるので、不足していない東京や北海道では唯一、泊村のような町は交付金は無い。</p> <p>美幌では40億円の交付税をもらい、町税20億に比べて非常に大きい、これがどうなってくるかで、がらっと変わる。</p> <p>補助金とは違う、補助は事業に対してのものであり。補助金は使用目的がはっきりして、それ以外は使えない。交付税はもらったなら何にも使える。</p>
佐々木委員	<p>なるほど、わかりやすかった。</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
佐久間副部長	他に意見は。「ふるさと納税」についてでも良いので。年間どれくらいの額が？
平井部長	約1,300万円ほど寄付いただいている。
疋田委員	お礼の品はどのような物を送っているのか。
露口主幹	農産物、アスパラ、ジャガイモ・玉ねぎなど農産物を送っていたが、今年度からカタログにしてポイント利用が出来る。この取り組みが5月頃には実施できるので。ぜひ見て知人に広めて欲しい。扱ひ品は全て美幌の特産農産であり、地場の後押しに繋がると思っている。
疋田委員	このあいだ、美幌新聞で見た、“豚ジンカン”でも扱ってもらったらと思うが？
小澤主事	申込者には、まちづくりのアイデアや特産品にもアンケートで意見などを求めて反映していきたい。特産品がきっかけで、これまでより雇用や活性化、その先には定住移住にもなる。今のうちに機を逃さずに取り組みたい。寄付金を、子育てやバス購入などの財源に充てることができないか検討している。
疋田委員	それだけ考えているのなら、全国的にTVのCMでPRしたら良いと思う。HBCとか来るのでは？
小澤主事	去年は日経ビジネスとか経済雑誌に何誌かで、掲載してもらっている。将来は美幌の観光ツアーや朝採りアスパラ、宿泊体験でも考えている。PR不足はネットなりで発信していきたい。地元農家ががんばっている方にも目を向けていきたい。
志布委員	来てもらう事が大事。北海道から来る航空チケットは安いのに、北海道から道外には高いチケット、北海道がなんでも負担するよりも。
疋田委員	いままで、ずっと特産品なくて自分のところでも農産物を扱っていた。年間とおして頒布のように季節に応じた農産物を楽しみにしている方もいる。北海道の特産品は自分たちの住むところに売っていないので、食べてみたいという声がある。
佐々木委員	動画にして紹介する。アスパラにしても収穫こんな風になっている様子を動画アップで紹介するのも良いのでは。おいしければ北海道の野菜は安くしなくても需要ある。
小澤主事	北海道ブランドに付加価値ある。和牛は神戸牛など全国ブランドにはかなわない。美幌は農産物があり時期的に品物変えて試してみたい。がんばっている農家いるので、アンケート意見もらいながら、お礼の品目も考えていきたい。
疋田委員	大きな農家は無理なので、小さな農家に頼むほうがいい。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
小室主幹	人口減少のなかで、美幌も戦略を作るが、子育て環境や雇用確保さらに移住・定住へアイデア出して、他町村とも知恵比べになるが。
佐久間副部長	時間がすでに9時を過ぎましたので、本日は終了します。